



千葉大学 (千葉県)

日本の学生とともにグローバルな視点から日本を捉え直すコース

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1) 1949年にできた総合大学で、規模、内容とも国立大学法人の上位にあります。国際教養学部、文学部、法政経学部、教育学部、工学部、園芸学部、理学部、医学部、薬学部、看護学部に加え、2024年には情報・データサイエンス学部が新設されました。また、人文公共学府、専門法務研究科、教育学研究科、融合理工学府、園芸学研究科、医学薬学府、看護学研究科、総合国際学位プログラムなど17の大学院があります。

- ・学部学生定員：9,742名
- ・大学院学生定員：3,183名
- ・教授、准教授、講師、助教、助手：1,242名

2) 日本社会のグローバル化を牽引する「スーパーグローバル大学」として、文部科学省の重点支援を受け、留学生の受入れや派遣を積極的に行ってきました。2024年5月現在、877名の留学生が学んでいます。来日から帰国まで、留学生の生活をサポートするインターナショナル・サポートデスクも設置されています。

<http://www.chiba-u.ac.jp/international/isd/>

3) 幅広い視野、批判的思考力、豊かな人間性を養うことを目指して行われる教養教育が充実しており、アクティブラーニング、協働学習を取り入れた授業が多数開講されています。

② 国際交流の実績

千葉大学は41カ国287大学と大学間交流協定を結び、活発に交流を行っています。2024年5月現在、協定校からの留学生が100名以上在籍しています。

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2024年：留学生数 877人、日研生 3人
2023年：留学生数 888人、日研生 5人
2022年：留学生数 861人、日研生 3人

④ 地域の特徴

日本語・日本文化研修留学生が学ぶ西千葉キャンパス（千葉市）は、東京から電車で約1時間、成田国際空港から車で約45分のところにあります。人口約98万人の千葉市は、気候が温暖で物価も比較的安く、生活しやすいところです。また、千葉県は水と緑の豊かな自然に恵まれています。地域の環境については千葉県のホームページも参照してください。<http://www.pref.chiba.lg.jp/>

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

1) 教育方針・特徴

日本語・日本文化を専攻し、将来にわたって日本研究を続ける意思のある留学生のためのコースです。日本の学生と協働して日本の文化・社会の多様性を学ぶことができ、グローバルな視点からクリティカルに日本を捉えられるようになります。チューター制度や語学交換プログラムなどを通して、日本の学生と交流を深める機会も十分にあります。

2) 研修内容

日本の文化・社会に関する授業の受講に加え、

日本について興味のあるテーマで調査研究を行います。アカデミックな日本語能力を養いながら、日本に関する専門的な知識を習得し、研究能力を高めていきます。

日本語学習については、各自の日本語レベルに応じた日本語コースに参加し、四技能（読む・書く・聞く・話す）を総合的に伸ばすことができます。

③ 受入定員

8名（大使館推薦6名、大学推薦2名）

④ 受講希望者の資格、条件等

- ・日本語能力試験N2合格レベル以上の日本語力を持ち、以下のようなことができること。
- *自分が興味のある話題で会話を続ける。
- *日本語で行われる留学生向けの基礎的な講義を理解し、演習に参加する。
- *漢字1000字以上を習得し、時々辞書を使いながら一般的な話題の文章を読む。
- *自分が興味のあるテーマで1000字程度の説明文、意見文を書く。
- ・日本に関係する特定の分野について研究上の関心を持ち、帰国後も研究を続けたいと考えている学生が望ましい。



⑤ 達成目標

- ・日本の文化、社会の多様性を理解し、それらをグローバルな観点から捉えられるようになる。
- ・基礎的な学術日本語の運用力を身につけ、日本語を使って研究が進められるようになる。
- ・研究成果をレポートにまとめて、発表できるようになる。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2025年9月下旬～2026年8月下旬
（在籍期間：2025年10月1日～2026年8月31日）

※学年暦は4月から始まります。千葉大学はターム制を取っているため、最初の学期（秋学期）は第4ターム～第5ターム、2番目の学期（春学期）は第1ターム～第2タームとなります。各タームは7週間、授業ごとにメディア授業が1回ずつあります。

⑦ 奨学金支給期間

2025年10月～2026年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

- 9月下旬：来日前のオリエンテーション、及び日本語のインタビュー、渡日（2024年は9月9日）
- 10月： ウェルカムパーティー、対面でのオリエンテーション
- 11月： 日帰り見学旅行
- 12月： ホームビジット
- 12月： ユニバーサルフェスティバル
- 5月： 日帰りの見学旅行
- 6月： ユニバーサルフェスティバル
歌舞伎鑑賞教室
- 7月： 修了レポート発表会
- 8月： 修了式
- 8月下旬： 帰国（2024年は8月31日）

※このほかにも、CISG（千葉大学国際学生会）のメンバーになって活動したり、週1回パートナーと会って、お互いの言語や文化を教え合うLEXプログラムに参加したりすることができます。また、近隣の小・中学校などで行われる国際交流活動に参加して自分の言語や文化を紹介する機会があります。

⑨ コースの修了要件

必修の演習科目を4単位、選択科目18単位以上履修し、修了レポートを提出して合格と認められた者に修了証書を授与します。学習時間は概ね435時間以上になります。参加者への修了証書の送付は2025年10月中旬になります。

受講科目を登録し、合格の成績を修めた科目については、成績通知表を発行します。
※上記コース要件を定められた研修期間より早く修了した場合、早期修了が可能です。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

必修科目「特別研究（文系）A・B」は、9カ月かけて修了レポートを作成する密度の濃い授業です。専門の異なる5名の教員がゼミ形式で指導します。7月には公開発表会を開催し、その成果はレポート集として刊行しています。

これまでの修了レポートのテーマの例

- ・日本アニメにおける妖怪文化の変容
- ・日本語学習者同士の会話における終助詞「ね」「よ」の機能考察
- ・日本人のインドスイーツに対する受容性
- ・バリアフリー教育の現状と課題
- ・日本神話における天孫降臨神話の由来について
- ・男性による育児休業取得の阻害要因に関する考察



千葉大学では副専攻「国際日本学」があり、日本の学生とともに日本について学ぶ機会が豊富にあります。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目（2コマ）

特別研究（文系）A・B〔30・30〕：日本に関するテーマを自分で選んで、6000字以上の修了レポートを作成し、成果を口頭発表する。
※〔 〕内の数字は、授業時間数です。以下同じ。

II) 選択科目

以下の(1)日本語科目、(2)日本を学ぶ科目（人文科学系・社会科学系）を中心に、各自の日本語能力や興味・関心に合わせて科目を選択します。
(2)の科目はすべて日本人学生との合同授業です。

(1)日本語科目

プレースメントテストを受けて、中級以上の4つのレベルのいずれかに入り、各学期3科目（3コマ～4コマ）以上受講します。通常、2学期目には一つ上のレベルに進みます。

日本語 500/中 級	総合〔60〕・口頭表現1〔30〕・口頭表現2〔30〕・文法〔30〕・文章表現〔30〕・漢字〔30〕
日本語 600/中 級後半	読解〔30〕・口頭表現1〔30〕・口頭表現2〔30〕・文法〔30〕・文章表現〔30〕・統合型〔30〕・漢字〔30〕
日本語 700/上 級前半	読解〔30〕・口頭表現〔30〕・文法〔30〕・レポートの書き方〔30〕・統合型〔30〕
日本語 800/上 級後半	読解〔30〕・口頭表現〔30〕・レポートの書き方〔30〕・統合型〔30〕

※500の総合のみ2コマの授業、それ以外は1コマの授業です。日本語500、600は各学期同じクラスが開講されます。

※日本語の科目編成は毎年若干変更される可能性があります。最新情報は、以下のページを参照してください。<https://jlcr.chiba-u.jp/top.php>

(2) 日本を学ぶ科目（人文科学系・社会科学系）
日本イメージの交錯A・B〔各16〕：日本をめぐるイメージについて様々な素材・角度から議論する。

日本アジア文化交流史A・B〔各16〕：日本とアジア諸地域との文化交流を歴史的に振り返る。

近代日本のアジア観〔16〕：江戸末期から昭和戦後期までの日本の「アジア」観の特色を考察する。

特別研究（文系）C・D〔30・30〕：国立歴史民俗博物館との共同授業。各自の母国から同博物館を訪問する人に向けて展示案内（ワークシート）を企画し母語で作成する。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加できる科目及び具体的な内容
カレッジリンク@ローカル〔30〕：市民と学生が一緒に受講し、地域の課題や問題を自分たちで考える。対象地域は年度によって異なる。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

以下の国際教養学部専門科目は、日本語・日本文化研修留学生を積極的に受け入れています。

日本の食文化〔16〕：戦後登場した食材あるいは料理を題材に、日本社会と食文化の関わりを概説する。

現代社会と民俗〔16〕：常識と思って行われてきた生活習俗や民俗の背景を考え、合わせて現代日本における価値観のなかで、その生活習俗や民俗の歴史的背景、現在的な意味を解釈する視点を学ぶ。

日本と宗教〔16〕：21世紀の日本にとっての主な課題と宗教との関連を解説しながら、事例を紹介し、学際的な視点からも論じる。

日本の言語文化〔16〕：日本語の特徴について、社会言語的側面、語用論的側面を踏まえ、他の言語と比較しながら掘り下げていく。

多文化共生教育論〔16〕：日本社会の多文化化の経緯、現状を把握し、多様な人々が共生する上での課題について教育という視点から考える。

第二言語習得論〔16〕：複数言語環境で成長する子どもたちへのことばの教育について考える。特に、国外に居住する日本の子どもたちに焦点を当てる。

以下の千葉大学シラバス検索システムで詳しい情報を見ることができます。

<https://syllabus.gs.chiba-u.jp/>

また、上記以外の千葉大学で開講されている一般学生向けの授業も、担当教員の許可が得られれば受講することができます。

⑩ 指導体制

国際教養学部 に所属する以下の教員がガイダンスや個別指導を通して学業面、生活面のサポートを行います。

吉野 文（専門：日本語教育学、応用言語学）
本間 祥子（専門：年少者日本語教育、海外子女教育）

■ 宿 舎

近隣の不動産会社等と連携して単身用の民間アパート、シェアハウスなどを紹介しています。また、留学生の部屋探しをサポートする会社も紹介しています。ハウジングについて詳しくは次のウェブページを参照してください。

<https://www.chiba-u.ac.jp/international/isd/jp/housing/otheraccommodation.html>

○紹介物件の一例（2024年10月時点）
・費用

支払方法	クレジットカード決済、その他オンライン決済など。 ※不動産会社によっては、渡日前に宿舍費を請求する場合があります。	
初期費用	9月日割家賃・共益費、 10月家賃・共益費など	約70,000円
毎月の費用	当月家賃・共益費、 前月光熱水費	約57,000円
退去後費用	退去月光熱水費	約10,000円

・設備・備品
冷蔵庫、電子レンジ、ミニキッチン（電磁調理器、戸棚）、洗濯機、ユニットバス、冷暖房、Wi-Fi等
※物件により、上記と一部異なります。

■ 修了生へのフォローアップ

日本語・日本文化研修留学生プログラムの修了者に対しては、個別に進路相談などの対応をしています。修了生の中には国の大学を卒業後、千葉大学をはじめとする日本の大学院に進学する人が少なくありません。

大学・大学院卒業後は、大学で日本語、日本文学の研究者となっている人、日本で就職している人、国の日系企業で翻訳・通訳に従事している人など、何らかの形で日本と関わりを持っている人がほとんどです。

■ 問合せ先

<担当部署>

千葉大学学務部留学生課

住所：〒263-8522

千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33

TEL：+81-43-290-2193（直通）

FAX：+81-43-290-2198

Email：mext-scholarship@chiba-u.jp

<ウェブサイト>

千葉大学ホームページ

<http://www.chiba-u.ac.jp/>

<http://www.chiba-u.ac.jp/e/index.html>

千葉大学国際教育センターホームページ

<http://cie.chiba-u.ac.jp/>

<http://cie.chiba-u.ac.jp/index-e.html>

<コース内容に関する照会先>

吉野 文 大学院国際学術研究院 教授

Email：ayoshino@faculty.chiba-u.jp